



兵庫あおのだより

独立行政法人 国立病院機構 兵庫あおの病院

春季号 (第91号)

平成31年4月

〒675-1327 小野市市場町926-453

TEL 0794-62-5533



【西脇市市原町】 写真提供者 都倉 昇

ここは、かつて西日本旅客鉄道(JR西日本)鍛冶屋線の市原駅があった所です。1990年(平成2年)4月1日・鍛冶屋線廃線に伴い駅も廃止、駅舎も解体されました。現在、跡地には大正10年5月9日に建築されたモダンな洋館風旧駅舎が復元され、『鍛冶屋線市原駅記念館』として貴重な資料や記録と共に、キハ30形気動車両が静態保存されています。

毎年4月には、ご覧のように桜が咲き誇ります。

あおの守る会50年のあゆみ	50周年記念式典実行委員長	布藤 明良	2
実践報告会・院長賞を受賞して	研究検査科	藤川 二三	3
実践報告会・看護部長賞を受賞して	理学療法士	古谷 育子	4
実践報告会・実行委員長賞を受賞して	西3病棟看護師	藤原 由典	5
実践報告会・ベストポスター賞を受賞して	外来・手術室	西村 友紀	6
平成30年度の当院における公開活動及び院内活動			7
外来診察・検査担当表			8

広報誌「兵庫あおのだより」 季刊発行 編集:広報誌ホームページ編集委員会

病院ホームページ <https://hyogoaono.hosp.go.jp/>

Eメール: 414-aono@mail.hosp.go.jp

「あおの守る会50年のあゆみ」

50周年記念式典実行委員長 ふとう あきよし 布藤 明良



「あおの守る会」は、「兵庫あおの病院」の重症児(者)病棟へ入院している重症児(者)の保護者の会で、小野市市場町へ新築移転するまでは「親の会」と呼んでいました。1969年(昭和44年)当時の国立青野原療養所内に重症児(者)病棟が開設され、それまで行き場のなかった重症児(者)が入院したのが始まりです。

当時の重症児(者)に対する国の施策は不十分で、保護者にとっては深刻な悩みでした。例えどんなに重い障害があっても「命」を守って欲しいという強い願いから、小野市青野原という不便な立地環境にも関わらず各地域から入院してきました。

保護者たちは、病棟開設直後から奉仕活動や病院内外の環境整備を行うなど、

同じ悩みをもつ保護者同士の助け合いをしていきました。

その後も、重症児(者)に関する法律や制度の整備を要求するため、兵庫県や近畿地区、さらには「全国重症心身障害児(者)の会」とも共同して行動してきました。こうした歴史があって、5年前病院新築移転を期に「親の会」を「守る会」と名称変更したものです。

この度、会結成50周年を迎えましたが、2013年(平成25年)「障害者総合支援法」施設後の動きは著しく、高齢化問題や介護・医療問題などの狭間で、今後の重症児(者)問題の新たな課題も見えてきた節目の50年だと思っています。



小野市市場町 山田の里公園

実践報告会・院長賞を受賞して

研究検査科 藤川 二三
ふじかわ ふみ

第13回実践報告会では院長賞をいただき、誠にありがとうございました。このような賞をいただきましたことは、日頃ご指導いただいている先生方をはじめ、検査科の方々のお陰と心から感謝しております。

深部静脈血栓症は、長期臥床等による静脈血流のうっ滞、血液凝固能の亢進、静脈壁の障害等により起こり、下肢および骨盤内などの深部静脈に血栓が生じた状態です。そのため、当院でも以前より深部静脈血栓症予防の為に様々な対策が行われていました。

一般的には下肢腫脹や疼痛等を伴いますが、無症候性の発生も存在するため、当院では昨年3月より無症候性深部静脈血栓症の早期発見の為に、重症心身障害児(者)病棟の全患者様に下肢静脈エコーおよびDダイマー検査を開始しました。

超音波検査では検査体位等に難渋することも多く、看護師さんや同僚の協力なしには検査が難しいことが多くありました。

約1年間検査をさせていただいて感じたことは、当院でも無症候性の深部静脈血栓症は存在していましたが、他院の文献と比

較して少ないということでした。それは様々な職種の連携による成果だと思いました。

今後も検査を継続し、無症候性深部静脈血栓症の早期発見に努め、患者様に貢献していけるように、さらに知識・技術の向上に努めて参ります。今後ともご指導のほど宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、このような機会を与えていただきました院長先生をはじめ、実行委員の皆様に御礼申し上げます。



西脇市市原町 杉原川右岸堤

実践報告会・看護部長賞を受賞して

理学療法士 古谷 育子 ふるたに いくこ

当院では重症心身障害児者を対象に、夏に療育活動としてプール活動を実施しています。

しかし、気管切開された方などは、リスクも高いとされ、その活動に参加する機会が無いのが現状でした。

気管切開をしていてもお風呂に入ることは何の問題ありません。ただ違うのは水温や浴槽の広さ、深さといったところです。入水するということは、気管切開孔から水が入るなどのリスクを伴いますが、浮力を利用することで身体を動かしやすかったり、普段とれない姿勢がとれたりと多くのメリットもあります。

よって、当院でも幼児期や学童期の方の入院が増加している中で、一度でもプールの楽しさや気持ちよさなどを体験させてあげることにはできないかという思いがありました。

そこで、他職種にプール活動のメリットを理解して頂くとともに、どうすれば安全にできるか、またリスク管理についても話し合う機会を作ることから始めました。何度か話し合いを行い他職種の協力のもと、リハビリテーションの一環としてプール活動を実行することとなりました。

当日患者様は、始めやや緊張し驚いたような表情も見られましたが、すぐに笑顔がいっぱいに広がり楽しそうに手足を動かす動きがみられたり、緊張が緩和しリラックスすることができたりと、いつもと違った様子が観察されました。低体温の方も入水後の管理をしっかり行うことでトラブルなく過ごすことができました。参加したご家族も非常に喜んでくださり一緒に水遊びを楽しむことができました。

WHO（世界保健機構）では国際生活機能分類（以下ICF）の包括概念で「心身機能・構造」「活動」「参加」があり、これらの生活機能を高めていくことが重要であると提唱されています。

障害を持った子ども達にとっての「活動」とは「やってみること」、「参加」とは「友達と一緒に過ごすこと」になると思います。プール活動を通して「できた・やってみた」「一緒に遊べた・友達と出会えた」そういった思いが生じるだけでも大きな意義のあるリハビリテーションだと言えます。今回トラブルなく実施できたのも、他職種との協力体制が必要不可欠で、準備段階から連携し協力しあうことができたからだと考えます。

成長・発達を見込むことが困難な重症心身障害児においては、日常の些細な出来事の積み重ねが人生そのものに相当すると考えます。

よって生活への視点を持ち日常生活の全てにおいて支援していくことが大切です。

医療従事者として、患者様の全人格を受け止め理学療法士としての使命をこれからも遂行していきたいと思えます。



実践報告会・実行委員長賞を受賞して

ふじわら よしのり
西3病棟看護師 藤原 由典

今年度の実践報告会にて実行委員長賞を受賞することができ、大変驚き恐縮しています。

今回発表させて頂いた5S活動は、西3病棟で今年度から新しく係りとして取り入れられ、病棟の「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」の5つのSを行う目的で活動してきました。この5つのSを行うことで「職場から無駄な物、スペース、時間をなくす」「物や情報の共有をしやすくする」「乱れや異常のない状態を作り、異常が発生すれば一目でわかるようにする」「あらゆる物や情報が完全に管理された状態を維持し、かつ改善して高度化する」「物や情報を扱う人間の意識と行動を改善する」という効果が得られます。

主な活動内容として活動前に病棟内の写真を撮り、その写真についてのKYTカンファレンスを行い、患者さんの安全を守るためにはどうすればよいか、自分達が働きやすい環境とは何かについて意見交換をし、ナースステーション内や患者さんのベッドサイドなどを整理整頓していきました。また毎月環境ラウンドを行い、ゴミ箱からゴミがはみ出していたりすると次の日の朝の全体の申し送りの際に注意喚起を呼びかけました。また病棟スタッフに対して5Sについての勉強会を実施し5Sについての意識が持てるようにしました。こういった1年間の活動を通

して、少しずつですが病棟の環境改善につながり、環境改善の必要性を病棟スタッフに意識付け出来たと思います。

しかし改善前に戻っている場面もあるので「しつけ」の部分を継続していくのは難しいと実感しました。来年度はしつけを定着させることを課題とし、環境改善ができていな



い場所はまだまだあるので改善していきたいと思います。

最後に、受賞後に実行委員長の玉村先生になぜ選んでいただいたのか聴くと、環境を改善する前の写真を載せていて、その写真は片付いていないので、出来れば載せたくはないものなのに載せていたことが評価ポイントだと言われました。確かに恥ずかしい部分でしたがそこを評価していただいて嬉しかったです。



加東市社町 千鳥川桜堤公園

実践報告会・ベストポスター賞を受賞して

にしむら ゆき
外来・手術室 西村 友紀

平成 29 年度実践報告会にて、「人工呼吸器を装着している重症心身障害児(者)への外出支援行事の取り組み」についての報告をさせていただきました。

今年度よりポスター発表は支説がありませんでしたので、ポスターを見て取り組み内容が伝わるように表や写真を使用しました。まとめることが難しかったのですが、賞をいただいたということは皆さんに発表内容が伝わったのだと嬉しく感じています。

東 3 病棟では外出支援が初めての取り組みであり不安もありましたが、事前準備から当日まで皆さんに助けをいただき無事に終わることができました。結果、患者・家族にとって良い経験となりました。今回の取り組みが先がけとなれば幸いです。

ご指導やご協力いただいた師長、副師長をはじめ、病棟看護師、他職種の方々には

心から感謝しています。

病棟においても、離床チームが中心となり、車椅子へ移乗し過ごす時間をつくり、離床率の拡大に繋がっています。今後も医療チームとして患者様の QOL の向上に努めてまいりたいと思います。

ありがとうございました。



加西市網引町 万願寺川左岸堤

平成30年度の当院における公開活動及び院内活動

○ 公開活動

日付	行 事
7月14日	『ゆぴか』にてあおの保健室を開催
6月28日	第26回障害者と高齢者の「摂食・嚥下、口腔ケア支援講座」開催
10月25日	第6回兵庫あおの市民公開講座『糖尿病と生活習慣』を開催
11月17日	『イオン三木』にてあおの保健室を開催
11月29日	第27回障害者と高齢者の「摂食・嚥下、口腔ケア支援講座」開催
1月12日	『イオン小野』にてあおの保健室を開催

○ 院内活動

日付	行 事
5月28日	小野中学校学生職場体験（トライやる・ウィーク）の受入
7月25日	三木高校インターンシップを受入
10月13日	第60回近畿地区国立病院看護学会（大阪）へ参加
11月9日	国立病院総合医学会（神戸）11月11日迄
11月29日	消防訓練を実施
12月5日	講師を招いて虐待防止研修会を開催



小野市住永町 おの桜つつみ回廊

兵庫あおの病院 診察・検査担当表

外来診療担当表

平成31年4月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	土
内科	午前	診察1	八幡 知之	中原 由紀子	陣内 研二	浅香 隆久	
		診察2	義富 辰夫	石田 純一郎*	松山 栄一	中原 由紀子	松尾 洋介
		診察3	吉田 尚史	中山 昌彦*	義富 辰夫*	義富 辰夫*	中山 昌彦*
	午後	義富 辰夫*	中山 昌彦*	義富 辰夫*	義富 辰夫*		
外科	診察5	永田 真知子	平井 二郎	李 震中	平井 二郎	李 震中	
整形外科	診察6		平井 和雄*	平井 和雄* (隔週)			常深(午前)/ 担当医(午後) 予約制
リハビリテーション科	診察5	永田 真知子	平井 二郎	李 震中	平井 二郎	李 震中	
小児科	診察7				木藤 嘉彦		
専門 外来	心身症外来					郷間 英世◇	
	呼吸器・血管外科		平井 二郎*		平井 二郎*		
	内分泌・アレルギー外来 (午後)		木藤 嘉彦*		木藤 嘉彦*		
	渡航外来 (午後)		浅香 隆久*		八幡 知之*		

診療受付は平日の午前8:30～午前11:30です。

※印の外来診療は予約診療です。予約を取り、予約票をお持ち下さい。ただし、初診・急病の場合は予約なしでも、診察を行っています。

◇印の外来診療は予約患者様のための診察となります。(初診の方の診察は行っていません)

診療担当医が都合により変更となる場合がありますが、ご了承下さい。

患者様の状態により、診察の順番が前後する場合がありますがご了承下さい。

整形外科診察日には、リハビリテーション科の診察は休診となりますが、リハビリテーション科患者様の診察も行います。

検査担当表

検査内容	月	火	水	木	金
胃カメラ(午前)				服部 三太	
大腸ファイバー(午後)				服部 三太	

※検査はすべて予約診療です。

入院患者様診療

診療科	月	火	水	木	金
小児科			山本 暢之	太田 武志 末松 正也 (交替制)	岡本 賢治 河辺 泰宏 (交替制)
小児外科	尾藤 祐子 富岡 雄一郎 大片 祐一 中谷 太一 曾田 洋輔 宮内 玄德 (交替制)			竹本 正和 久野 克也 (第2・4週)	
形成外科			藤井 美樹 (毎月第3週)		
皮膚科			加藤 則人 (毎月1回) 益田 浩司 (毎月1回)	金子 由佳 (毎月1回)	浅井 純 (毎月第3週)
耳鼻いんこう科			吉本 公一郎		
歯科	古土井 春吾			小紫 香代	明石 昌也

兵庫あおの病院 電話 0794-62-5533 (代)